



報道機関各位

熊本大学

## 男女共同参画社会の実現に向けた日独韓からの提言 —誰もが暮らしやすい社会をめざして—

このたび、熊本大学国際共同研究拠点の成果報告の一環として、上記シンポジウムを開催する運びとなりました。本シンポジウムでは、日独韓3カ国で、男女共同参画政策の研究、ならびに、実務に携わってきた研究者達が、各国の現状や課題について報告を行い、これを踏まえた上で、性別や生き方の選択に関わらず、誰もが望ましい方法で参画ができる社会を形成するために、今、何が求められているのかにつき、来場者も交えて意見交換することを目指しています。

講演者の中には、政策研究のみならず、大学や自治体において、男女共同参画社会の具体化に携わった経験を有する者もあり、それゆえ、政策の国家間比較に止まらない、より実務的な観点からの提言も行われる予定です。

上記のような内容、目的から本シンポジウムでは、研究者のみならず、自治体職員や男女共同参画に関心がある一般市民等、幅広く参加者を募りたいと考えておりますため、広く一般の方へお知らせいただくとともに、当日の取材方、よろしく願いいたします。

### 記

【日時】平成26年9月27日（土）13:00～16:30

【場所】熊本大学くすのき会館 レセプションルーム（熊本市黒髪2丁目40番1号）

【対象】一般市民（興味があるかたはどなたでも）、学生、研究者等

【参加費】無料

【申込方法】下記申込先に、電話、またはE-mailにてお申し込みください。

E-mailで申し込みの際は、氏名、電話番号をご記入ください。

熊本大学大学院先端機構 国際共同研究拠点 人文社会科学系担当

TEL: 096-342-2480（直通）

E-mail: c-sato@inu.kumamoto-u.ac.jp

[申込締切] 当日参加も可能ですが、事前申し込みにご協力ください。

なお、託児（無料）をご希望の方は平成26年9月16日（火）までに、お申し込みください。

※詳しくは別紙チラシまたはホームページをご覧ください。

[http://www.kumamoto-u.ac.jp/kenkyuu/news/26jnbunkiyoten\\_dan.jp](http://www.kumamoto-u.ac.jp/kenkyuu/news/26jnbunkiyoten_dan.jp)

#### 【お問い合わせ先】

熊本大学大学院先端機構

人文社会科学系担当

担当：佐藤 TEL: 096-342-2480



人文社会科学系国際共同研究拠点・男女共同参画推進室共催

# 男女共同参画社会の実現に向けた 日独韓からの提言

—誰もが暮らしやすい社会をめざして—

日時

**9月27日(土)**

13:00 ▶ 16:30

会場

熊本大学 黒髪北キャンパス  
**くすの木会館  
レセプションルーム**

**入場無料**

当日参加も可能ですが、事前申し込みにご協力ください。

【託児を希望される方】

事前申し込み必須となっております。

申込期限: 9月16日(火) 無料

【申込・お問い合わせ】

熊本大学 大学院先導機構

国際共同研究拠点 人文社会科学系担当

TEL: 096-342-2480 (平日9:00-17:00)

E-mail: c-sato@jimu.kumamoto-u.ac.jp

## Program

全て日本語で行われます。

- ◆13:00  
開会挨拶  
高橋 隆雄(人文社会科学系国際共同研究拠点長)
- ◆13:05  
趣旨説明  
「アベノミクスは女性を輝かせられるのか  
—日本の男女共同施策の課題—」  
倉田 賀世(熊本大学法学部准教授)
- ◆13:20  
「ドイツにおける現状と課題  
—とりわけ大学における男女共同参画の視点から—」  
ゲジーネ・フォリヤンティ=ヨースト  
(Martin-Luther-Universität Halle-Wittenberg、政治学日本学科教授)
- ◆14:20  
「韓国における男女共同参画政策の発展と課題」  
大澤 貴美子(延世大学准教授)
- ◆15:00  
「日本の地方自治体における男女共同参画社会施策  
への取組と課題—条例化の行程での議論や実施後  
の課題から学ぶ—」  
古橋 エツ子(花園大学名誉教授)
- ◆15:50  
パネルディスカッション
- ◆16:30  
閉会の挨拶  
山縣 ゆり子(熊本大学副学長・男女共同参画推進室長)



## 講演者等紹介



### ゲジネ・フォリヤンティニョースト

マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルグ 政治学日本学科 教授  
(Professorin, Martin-Luther-Universität Halle-Wittenberg)

ボン大学、ベルリン、日本(東大)での研究を経て1992年よりマルティン・ルター大学教授に就任。2014年8月まで同大学の副学長。ベルリン日独センター評議会委員、日独フォーラム委員、ドイツ日本研究所学術顧問会長、旭日中授章受賞(2013年秋)等  
【著書】Bürger als Partner – Kooperative Demokratie in japanischen Kommunen, Wiesbaden (Springer, 2013)『パートナーとしての市民ー日本の自治体における協働型民主主義』共著(スプリンガー, 2013)  
Kommunizieren, Kontrollieren, Korrigieren – Gewaltprävention an japanischen Mittelschulen, Berlin, Frankfurt/Main (Peter Lang Verlag, 2003)『対話・規制・矯正ー日本の中学校における暴力予防対策』共著(ペーターラング, 2003)  
Bürger und Staat in Japan, Halle (Universitätsverlag Halle-Wittenberg, 2013)『日本における市民と国家』共編(ハレ大学出版会, 2013)など



### 古橋エツ子

花園大学 名誉教授  
(Emeritus Professor, Hanazono University)

花園大学教授、名古屋経営短期大学・学長を経て現在花園大学名誉教授。  
【著書】『女性と社会保障』共著(東京大学出版会, 1993年)  
『介護休業ー家族の介護が必要になったときー』単著(岩波書店, 1999年)  
『新・初めての社会保障論』編著(法律文化社, 2014年)など



### 大澤貴美子

延世大学原州キャンパス 准教授  
(Associate Professor, Yonsei University, Wonju Campus, East Asia International College)

2011年にUniversity of Wisconsin-Madison (米国)で政治学の博士号を取得後、現職。

【論文】“Traditional Gender Norms and Women's Political Participation: How Conservative Women Engage in Political Activism in Japan.” Social Science Japan Journal (2015)など



### 山縣ゆり子

熊本大学副学長、大学院生命科学部 教授併任

大阪大学大学院薬学研究科博士課程修了。大阪大学薬学部助手、助教授を経て、熊本大学大学院薬学研究科教授、組織改組で現職。  
【論文】共著「Watching DNA polymerase  $\gamma$  make a phosphodiester bond」Nature (2012)、共著「Diverse substrate recognition and hydrolysis mechanisms of human NUDT5」Nucleic Acids Res. (2011)



### 倉田賀世

熊本大学法学部 准教授

北海道大学大学院法学研究科博士後期課程にて博士(法学)号取得後、北海道大学法学部助手、関西外国語大学講師を経て現職。

【著書】『子育て支援の理念と方法』単著(北海道大学出版会, 2010年)、小宮他編『社会法の再構築』共著(旬報社, 2011年)、日本社会保障法学会編『地域生活を支える社会福祉』共著(法律文化社, 2012年)など

## パネルディスカッション・ファシリテーター



### 吉田龍太郎

慶應義塾大学法学部 助教(有期・研究奨励)

慶應義塾大学大学院法学研究科研究員を経て現職。

(さいたま市男女共同参画推進協議会委員)  
【論文】「ディーセントワークと男女の実質的平等へ向けて」(労働の科学 69巻2号, 2014年)、「保守合同後の芦田均ー近代主義者の国家論とその帰結ー」(法学政治学論究 101号, 2014年)など

## 会場案内

熊本大学黒髪北キャンパス

### くすの木会館レセプションルーム

(下図キャンパスマップ14番の建物です)



## 注意事項

- ・駐車場に限りがありますのでなるべく公共交通機関をご利用ください。
- ・お車でお越しの際には、北地区守衛所(右図34番)でコインを受け取ってからお入りください。